

大好き！絵本

初瀬 恵美



朝晩と少しずつ涼しくなってきましたね。夜になると、虫の音も聞こえてきて、秋の訪れも感じるようになりました。

「おばけ絵本」というと、「夏」というイメージですが、「秋の夜長」に、ちょっとこわくて、ドキドキの絵本を紹介させて頂こうと思います。



せなけいこさんは、おばけ絵本シリーズがあるほどたくさんのおばけの絵本を出版されています。その中でも50年以上前から愛され続けている『ねないこ だれだ』。かわいいおばけの表紙がなんともいえません。

とけいがあります ボン ボン ボン…こんなじかんに おきているのは だれだ？

ふくろうに みみずく くろねこ どんねこ…よなかにあそぶこは おばけに おなり

おばけの せかいへ とんでいけ おばけになって とんでいけ

と、寝ない子どもを おばけが連れに来て、おばけの世界へ連れて行ってしまうという、ちょっと怖いストーリーです。なかなか眠らない子どもを、怖がらせて早く寝かせようという絵本なのかな??と誤ってしまいますが、子どもたちと一緒に読んでみると、全くそんな感じはしません。

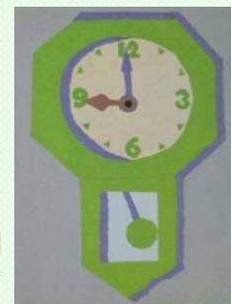
「きもだめし」感覚の「こわいもの見たさ」があり、わざと低い声でこわくならない程度に読むと、一緒に聞いていた子同士顔を見あわせて「きゃー」と言ったり、抱きあったりして見ていることがよくあります。でも目は絵本に釘付け、そして顔はニコニコ。まさに怖いもの見たさ半分、怖さを共感しあうことを楽しむこと半分といった感じで、年中、年長さんも楽しんで見ることができる絵本です。

いつもそんな感じで読んでいたのですが、あるとき2歳児の子がボンボン時計のふりこを指さして「これなに？」と私に尋ねました。この子は、昨年度(1歳児のとき)時計が大好きで本物の時計はもちろんのこと、時計がついている絵本や、写真などを大切にしている時期が数か月ありました。だからこそ、「ふりこ」に違和感を覚えて見逃さなかったかもしれません。これまで愛おしんできた数々の時計にはなかった「ふりこ」が、この絵本にはある。はたしてそれは何か。読んでくれる職員みんなに、「これなに？」と質問をしていたようです。

50代の私にとっては、日常にあった時計。音で時を感じ取っていた時計。今まで絵本を何度も読んできても、日常的に目にしていたため、何の違和感も抱いていなかったこの時計。しかし、いつの間にか、周囲から無くなっていたこの時計。この時計の仕組みを2歳児の子に説明するのは、とても難しいことでした。何度も何度も質問をされましたが、納得がいく回答は結局できませんでした。

数日後、同じように質問をされた職員が、なんと、家にあったボンボン時計を持ってきてくれました。(メルカリで購入したそうです)やはり「百聞は一見にしかず」です。(^▽^)/電池を用いた電波時計が主流のなかで、時を合わせて、手でネジをまき、動かす。静かだと振り子の音が部屋に響き渡るなつかしさ。そして、30分毎に時を告げてくれます。あらためて、昔の方の英知を感じました。

話はそれましたが、文章や絵など随所に昭和レトロな部分を感じることができ、どこか懐かしく、逆に新鮮かもしれない楽しい絵本を、ぜひ子どもたちと一緒に楽しんでみては、いかがでしょうか。



こんなとろぼうの
絵も、昭和レトロで、
あじがありますね